

ファザリング全国フォーラム in しがプライベート 震災復興チャリティーフォーラム

～みんなで考えよう！子どもたちの笑顔を守るために、今、わたしたちができること～
実施レポート

開催日 平成 23 年（2011 年）6 月 18 日（土）

会場 大津プリンスホテル、ピアンカ

参加者数 約 480 名

主催 ファザリング全国フォーラム in しが実行委員会

（特定非営利活動法人ファザリング・ジャパン（以下「FJ」という。）ファザリング・ジャパン関西（以下「FJK」という。）滋賀県、大津市、おおつ男性会議）

実施内容

<プログラム1>

1. 基調講演

「震災時、家族を守るために父親ができること」と題して、国崎信江氏（(株)危機管理教育研究所代表/危機管理アドバイザー）にご講演いただきました。

（要旨）

- ・地球温暖化等の影響により、災害の規模が巨大化することを知り、「想定外」の覚悟をすることが必要。
- ・防災とは、生命、身体及び財産を災害から保護することである。そのためには、住宅等を安全な場所に建てる、災害に強い建物で働く・住むことが重要。
- ・地震のとき、住宅内では固定されていない家具等が凶器になる。家具の固定を！
- ・物資が届かない、ライフラインの復旧が遅れるなどを想定し、災害時の備蓄品を十分に用意することが必要。



2. 被災者・支援者からの報告



小崎恭弘氏（神戸常盤大学短期大学部幼児教育学科准教授 / FJ 理事）をコーディネー

ターに、5名の方に被災者として、支援者として見た被災地の実態、生の声をご報告いただきました。

(各パネリストの報告要旨)

石川峰行氏(特定非営利活動法人 差し押さえにならない家づくりの考え方普及協会代表理事/FJ会員)

- ・3月14日11時1分の水素爆発後、福島市の放射線量は、最大で平常時の500倍もあった。しかし、この発表があったのは4月16日であった。現在は、相対的に下がったものの平常値の30倍程もある状態である。日本全国どこでも放射能汚染にいう可能性がある。

- ・親のインターネット等を利用した情報収集能力や情報の選択能力により、家族の行動が大きく変わる。

- ・正確な情報をつかんで、いかに子どもに伝えるか。子どもと日常的にコミュニケーションをとっておくこと、わかりやすく説明することが重要である。

- ・自分の子どもに放射能の怖さを教えるときにはイラストを用いて「痛くない注射の針のようなものだよ」と教えた。

- ・災害時に頼れる人間関係を作っておくためにも、親戚・地域とのつながりが大切である。

高橋博之氏(ぼくらの復興支援いわて・ゆいっこ花巻メンバー、岩手県議会議員)

- ・息の長い、顔の見える支援が大事ということで「ぼくらの復興支援いわて・ゆいっこ花巻」を立ち上げ、活動している。

- ・津波被害者のこころのケアは難しい。こころのケアには、「共感」が必要だが、津波被害者対しては、その共感ができない。共感できないほど、つらい状況である。

- ・被災者の皆が思っていること。「自然には、かなわない。」

- ・与えられる町ではなく、住民自ら作る町にしていかなければならない。過剰支援を控えてもらい、被災者の自立を引き出すような支援のあり方を考えていくことが必要。

- ・一方地震発生から3ヶ月が過ぎ、急速に支援熱が下がっているように感じる。被災地にとっては、無関心が最大の敵。これからも息の長い支援をしてほしい。

- ・遠い地域の方は、まず見に来てほしい。当事者に話を聞いてほしい。そして、忘れないでほしい。

黒橋真奈美氏(滋賀県健康福祉部健康推進課主幹(保健師))

- ・4月27日からビッグパレットふくしま(福島県郡山市)で全国から集まった保健師・看護師と協力しながら健康支援活動(健康状態の把握・相談)を行った。

- ・現在、東北三県の被災地で、全国の保健師が健康支援活動を行っている。
- ・ビッグパレットふくしまでは、ボランティアの発案で避難所内にキッズスペースが確保されていた。子どもたちは遊びたいが、高齢者は休みたい。そんな難しい状況の中で、子どもの「こころ」のケアを考えた工夫であった。
- ・これからの支援は、話をじっくり聞くこと。十分聞いて、そして「何がしたい？」と希望を聞き、被災者の方が一歩踏み出せるための支援が必要となる。
- ・保健師でなくてもひとりの人間として、被災者の気持ちを聞くことで元気になってもらえる。

池田勝三氏（大津市消防局管理監）

- ・3月11日18:35消防庁長官から「東へ向け出動せよ」と出動指令が入り、19:05大津市を出動した。750 km、17時間をかけて被災地へ到着。到着まででかなり疲労したが、郡山カルチャーパークで野営をしながらの支援活動を開始した。
- ・夜間は、氷点下まで冷え込む中、カップ麺で体をあたためながら、救急搬送活動を行った。
- ・津波被害は通常地震被害と異なるため、阪神淡路大震災の経験が活かせなかった。
- ・やり残したことがまだまだあるとの思いを皆が抱えながら、4月1日、被災地から引き上げてきた。
- ・父親は、家庭のリーダーだけでなく、平常時から地域のリーダーになってほしい。平常時から地域の人たちと顔見知りになっておくことで、災害時に皆が頼れるリーダーになってもらえる。

田中尚人氏（絵本出版社グランまま社編集長 / FJ 理事・FJ 被災地支援隊リーダー）

- ・これまでに、被災地の子どもたちの笑顔を一日でもはやく取り戻したいとの思いから、6回にわたって延べ3週間、岩手・宮城・福島の子どもたちへの支援活動を行った。
- ・被災地では、日頃遊びたいのを我慢したり、感情を抑えているせいか、過剰な反応を示す子どもが多かった。
- ・私たちは、絵本の読み聞かせなどで子どもを笑顔にするのが得意だが、被災地ではニコリともしない子どもがいる。聞いてみると、お母さんを亡くしてしまった子どもであった。
- ・そういった子どもたちに笑顔を取り戻してもらいたい。ゆっくりゆっくり時間をかけて継続した活動を行っていこうと思う。
- ・お父さんは怖くても可能な限り家で話題にする。子どもに、地震、津波、原発の怖さを教えていく必要がある。

3. ファザーリング・ジャパン事業報告、ファザーリング・ジャパン滋賀設立宣言

安藤哲也氏（FJ 代表理事）よりファザーリング・ジャパンの震災復興関連の事業報告がされました。また、今回の震災復興チャリティーフォーラムを機に設立されたファザーリング・ジャパン滋賀が設立宣言を行いました。今後のファザーリング・ジャパンの活躍にご期待ください。

[FJ の震災復興支援関連事業]

(1) パパエイド募金

(2) 父子家庭や震災孤児支援

・ネットワーク化 ・フレンチトースト基金の再起動

(3) 10 代若者へのキャリア支援

新プロジェクト「みちのく子デカラプロジェクト」



4. 未来に向けたトークとメッセージ

FJ 安藤代表理事をコーディネーターに、4名のパネリストから「震災は忘れた頃にやってくる、これから私たちができること子どもの笑顔を守るためにできること」をテーマにメッセージを発信していただきました。

(各パネリストのメッセージ)

国崎信江氏

恐れず一歩踏み出そう。私達は、その足元を照らそう

・足元というと被災地の子どもたちがどんな感想を抱くかわからないが、どんな道を歩もうとも私たちはその足元を照らしていきたい。

今後の活動として次の3つを進める。

学童保育の再建と、18未満の子どもたちを安全に預かれる拠点を作っていく。

今、被災地では支援の偏りが発生している。家にいる子どもも避難所にいる子どもも同じように利用できるプログラムを提供していく。特に、中・高校生が利用できる職業体験や、科学実験等のプログラムが必要である。

被災地への支援団体の調整窓口がなく、各団体がバラバラに支援に入っている状態である。行政も調整できる状態ではないため、わたしたちが窓口になり被災地と支援団体をつなげる役割を担っていく。



清水朋宏氏 (アクセスインターナショナル代表取締役社長)

結の精神でグリーンな震災復興を目指そう

・ニュージーランドは、原発を利用していない。2025年までに自然エネルギー発電率を95%にする目標。

・多くの先進国では、一般消費者が購入電力会社を選択できる。少々高くても、環境意識の高いエネルギーを選択する消費者が多い。

・人口規模が同等のドイツの再生可能エネルギーへの転換は、日本も参考にできる。

・助け合いの精神で復興に向かっていこう。

・電力を地産地消しよう。地域に根差した産業が構築、若者が戻りたいと思えるような震災復興をしていきたい。



成澤廣修氏 (東京都文京区長)

地域の絆、パパの絆、家族の絆

・帰宅困難者対策を自治体は課題として考えなければならない。



- ・子育て支援と防災対策は似ている。
- ・パパは日常的に地域とつながろう。
- ・地域のリーダーは、高齢の方が多いが、実際に避難所の運営リーダーになるのは、ファザーリングをやっているパパ世代である。

嘉田由紀子氏（滋賀県知事）



**最悪に備えれば心は楽しく、安心に
自分で守り、皆で守り、社会で守って子どもの笑顔を取り戻そう！**

・関西広域連合では、カウンターパート方式により被災地支援を行っている。カウンターパート方式とは、
宮城県への支援は、主に兵庫県、徳島県、鳥取県が担当
岩手県への支援は、主に大阪府、和歌山県が担当
福島県への支援は、主に京都府、滋賀県が担当
というように、関西広域連合の構成府県が担当する被災県を決め、重点的に支援する方式である。

- ・風評被害から被災地を守るため、被災地の生産物品を購入により支援しよう。市場に出ている野菜は安全である。
- ・これまで、滋賀県職員1,183人を福島県に派遣しているが、それは被災地への人的支援というだけでなく県職員にとっても災害対策を学ぶ場となっている。
- ・東日本大震災復興会議等の委員に女性が少ない。意思決定過程の場へもっと女性が参画していかなければならない。
- ・地域防災計画としての生活防災が大切だ。普段の生活の中でしていないことは、災害時にできない。

安藤哲也氏

**「想定外」を「想定内」に変えるのは、、、
父親の「想像力」と「家族・地域へのLOVE」だ**



5. 被災地に元気を送るパフォーマンス

3組方々が、それぞれの表現で被災地に元気を送ろうとパフォーマンスをしていただきました。

びわ湖ホール声楽アンサンブルによるミニ・コンサート



岩川亮子（ソプラノ）、竹内直紀（テノール）、松田千夏（ピアノ）

歌劇『椿姫』より「乾杯の歌」（作曲：ヴェルディ）

明日という日が（作曲：八木澤教司、作詞：山本櫻子）

千の風になって（作曲・訳詞：新井満）

オペレッタ『メリー・ウィドウ』よりワルツ（作曲：レハール）

美しい歌声とハーモニーに会場内が感動に包まれました。

風の子保育園親子による合唱

親子で「みいつけた！」を合唱。子どもたちのかわいい笑顔でみんな元気もらいました。



「からまつクラブ太鼓チーム絆」による和太鼓演奏



親子で迫力満点の太鼓演奏！！力強い勇壮な姿で、被災地に元気を届けました。

<プログラム2>

たくさん子どもたちが参加したプログラム2では、前半は、ピアンカに乗船し、琵琶湖クルージングを楽しみながら船上プログラムに参加していただきました。後半は、大津プリンスホテル内で、絵手紙講習会とパラバルーンを使った子育て家族防災トレーニングを実施しました。

1. 防災プログラム

特定非営利活動法人プラス・アーツさんによる体験型の防災プログラムが実施されました。建物に挟まれた人形を助け出すジャッキアップゲームや布を使った担架づくり、家の模型を使った家具転倒防止ワークショップなど、楽しみながら、防災の知識を学べるプログラムが実施されました。子どもたちは、真剣にプログラムに参加していました。



2. 絵本の読み聞かせ、バルーン・アート、マジックショー

FJK パパ（FJK 会員の皆さん）による、絵本の読み聞かせ、バルーン・アート、マジックショーが実施されました。FJK パパの巧みな絵本読み聞かせとバルーン・アート、大人も驚くマジックの数々に子どものみならず、参加したパパ・ママも引き込まれ大喜びでした。親子の楽しい笑顔がたくさん咲いていました。



3. 被災地に絵手紙を書こう！

大津市の絵手紙講師 清水早苗さんをお招きし、子どもたちに被災地に送る絵手紙を書いてもらいました。どの子どもたちも、被災地を想い、あたたかい言葉と優しい絵がたくさん詰まった絵手紙を書いてくれました。被災地へ心温まる絵手紙を届けます。



4. 子育て家族防災トレーニング

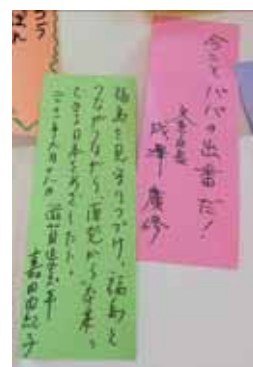
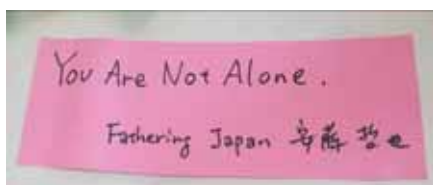
特定非営利活動法人 NPO 子どもネットワークセンター天気村さんによる「子育て家族防災トレーニング」が実施されました。パラバルーンを使い、自分の子どもを手だけ・足だけで見分けられるか、地域でどういったところが危険なのか、親にとって子どもの安全を守るための心構え等に気付く機会となりました。



<その他>

1. 被災地に送るメッセージ

会場では、「被災地に送るメッセージ」を参加者の皆さまに書いていただき、メッセージボードに貼り付けていただきました。小さな子どもたちも一生懸命書いてくれました。ファザリング・ジャパンの被災地支援活動を通じて被災地の方に届けます！！



2. 情報発信コーナー

情報発信コーナーでは、防災と男女共同参画（内閣府） 関西広域連合や滋賀県の被災地支援の取組（滋賀県） 大津市の男女共同参画への取組（大津市） 福島県の観光案内（滋賀県）等を紹介しました。



3. 産直産地応援フェア

プリンスホテル1階のロビーでは、生活協同組合コープしがさんのご協力により、風評被害に苦しんでいる産直産地を応援するため、福島県などの新鮮野菜等の販売をいたしました。この日は、ミニトマトやキュウリ、レタスなどの新鮮野菜や味噌や醤油の調味料、菓子等が販売され、たくさんの方にご購入いただきました。当日、福島県より販売にこられた生産者の方も安全性をアピールできたことやおいしい農産物等をみなさんに購入していただけたことにたいへん喜んでいらっしゃいました。



4. 出張 Be-cafe

プリンスホテル2階では、特定非営利活動法人びいめ～る企画室さんのご協力により、コーヒーや紅茶、焼き菓子や南部小麦を使ったパンなどの販売が行われ、参加者にほっと一息のくつろぎタイムを提供していただきました。福島県から避難されている女性が作ったスイーツを講師やパネリストにプレゼント



していただいたり、売上金の一部を被災地の義援金として寄付していただくなど心配りのなされた笑顔がステキなカフェでした。

5. 参加費の取り扱いについて

皆さまからいただきました参加費（20歳以上）につきましては、社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 ふれあい基金 災害支援活動基金へ全額寄付させていただきました。



寄付金額は、221,539円

内訳）・大人参加者207名分	207,000円
・会場内設置募金箱	9,539円
・特定非営利活動法人びいめ～る企画室様による出店 「出張 Be-cafe」による売上金の一部	5,000円

でした。皆さまご協力ありがとうございました。

関連ホームページ	かだ便り	http://www.pref.shiga.jp/chiji/nikki/index.html
	FJ ホームページ	http://www.fathering.jp/zenkoku/